

県立高等学校の在り方の検討に当たっての基本的な考え方・視点

1 第3期教育等の振興に関する施策の大綱／第4期高知県教育振興基本計画

(令和6年3月 高知県・高知県教育委員会) …[第5回参考資料1](#)

(1) 目指す人間像（基本理念）

- 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人
- 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人
- 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人
 - ≫ 目指す人間像（基本理念）を実現することで、個人が持続的に幸せを感じ、また、地域や社会もよい状態が続く「ウェルビーイング（Well-being）」の実現にもつながる

(2) 目指す人間像を実現するための基本目標

- 確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開
- 健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着
- 豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進

2 生徒数の更なる減少に対応した高等学校の在り方と学びの保障

3 高等学校を取り巻く環境の変化への対応

(1) 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（令和3年1月 中央教育審議会答申）…[第2回資料5-3](#)

① 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

② 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

- 個別最適な学び
 - 「指導の個別化」と「学習の個性化」
- 協働的な学び
 - 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、「協働的な学び」を充実

③ 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

全ての子供たちの知・徳・体を一体的に育むため、これまで日本型学校教育が果たしてきた、

- 学習機会と学力の保障
 - 社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障
 - 安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障
- を学校教育の本質的な役割として重視し、継承

④ 新時代に対応した高等学校教育等の在り方

- 高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための特色化・魅力化
 - スクール・ミッション再定義、スクール・ポリシー策定、普通科改革、専門学科改革
- 定時制・通信制課程における多様な学習ニーズへの対応と質保証
- STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成

(2) 高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ（令和5年8月 中央教育審議会初等中等教育分科会）

…[第2回資料5-2](#)

① これからの高等学校の在り方に係る基本的な考え方

- 高校教育の実態は地域・学校により非常に多様な状況であることを踏まえ、
- 生徒一人一人の個性や実情に応じて多様な可能性を伸ばす「多様性への対応」
 - 全ての生徒が必要な資質・能力を共通して身に付けられるようにする「共通性の確保」を併せて進めることが必要

② 少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方

- 同時双方向型の遠隔授業やオンデマンド型の学習を可能とする通信教育の活用、学校間連携の推進が必要
- 少子化が加速する地域における高校の在り方を考える上では、生徒の教育条件の改善という視点が大切であり、スクール・ミッションを実現できているかどうかや、生徒のニーズ、希望する進路等も踏まえながらスクール・ポリシーを検討し、当該スクール・ポリシーに対応した教育を提供できるよう条件を整備していくことで、生徒が行きたいと思える学校づくり、特色化・魅力化を進め、生徒の学習意欲を高めていくことが必要
- 小規模校は配置教職員数が限られるため、地域との協働や他校との連携を行い、生徒が地域に根差した学校で成長できるよう、コミュニティ・スクールの導入やコーディネーター等の専門的な人材配置など、体制・環境を整備していくことが必要

③ 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方

- いずれの課程でも、いつでも、どこでも、どのようにでも学ぶことが等しく認められるようにするなど、生徒の状況に応じた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現が重要
- 全日制・定時制において、多様な生徒が現籍校での学びを継続しながら、多様な学びを実現して卒業できるよう、支援の充実、入学者選抜における適切な評価、履修・修得の柔軟な認定、通信教育の活用、学びの多様化学校の設置や校内教育支援センターの設置促進、学校間連携等の促進、ICT活用の体制・環境整備などを考えていくことが重要
- 通信制課程に多様な課題を抱える生徒が多く在籍していることを踏まえ、必要な支援体制を整えるとともに、生徒が人間関係を築きながら、自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働する機会を充実させていくことが重要
- 公立通信制は生徒数が減少傾向にあるが、特に経済的な面にも課題を抱える生徒にとって重要な教育機関であり、一層の魅力向上・機能強化を図ることが必要

(3) 高知県中山間地域再興ビジョン（令和6年3月 高知県）…[第5回参考資料2](#)

① 基本的な考え方

- 県土の9割を占め、県民の4割が暮らす中山間地域の再興なくして県勢浮揚はなし得ない
- この考えのもと、「中山間地域再興ビジョン」において、中山間地域を再興し、人口を維持、早期反転、安定化させることで、県全体の人口構造を下支えし、もって県土の持続的な発展を目指す
- そのためには、県と市町村が連携し、中山間地域の若者と子どもの人口のこれ以上の減少を食い止め、増加に転じさせることで、人口の若返りを図り、持続可能な人口構造へと転換することが何よりも重要であることから、ビジョンの目指す姿の中心に「若者の人口増加」を掲げ、少子化対策と一体となった新たな中山間対策を推進する

② 10年後に目指す将来像

地域に若者が増えた持続可能な人口構造のもと、デジタル技術の活用などにより、地域で安心して生活ができる環境が維持され、地域に多様な仕事があり、誰もが将来に希望を持って暮らし続けることができる、活力ある中山間地域

③ 10年後の数値目標

- 若者のうち、減少、流出の著しい34歳以下の人口について、中山間地域のすべての市町村で令和4年よりも増加を目指す
- 出生数について、中山間地域のすべての市町村で令和4年よりも増加を目指す
- * 中山間地域の高等学校10校における地元高校への平均進学率50%（R5年度入学：31.3%）

(4) Society5.0社会への対応

- IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、今ある課題や困難を克服
- 人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題を克服
- 社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会を実現